

研究・調査報告書

報告書番号	担当
136	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Effects of alcohol-free beer on lipid profile and parameters of oxidative stress and inflammation in elderly women.</p> <p>高齢女性においてアルコールを含有しないビールが脂質、酸化ストレス・炎症マーカーに及ぼす影響</p>	
執筆者	
Martinez Alvarez JR, Belles VV, Lopez-Jaen AB, Marin AV, Codoner-Franch P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nutrition. 2009 Feb;25(2):182-7. Epub 2008 Oct 23.	
キーワード	
動脈硬化、ビール、酸化代謝、酸化型低比重リポ蛋白、ポリフェノール	
要旨	
<p>目的： アルコールを含有しないビールが動脈硬化関連因子、すなわち脂質、酸化ストレスマーカー、早期炎症関連サイトカインにどのような影響を及ぼすかを動脈硬化性疾患の危険を有する集団である閉経後女性を対象にして検証した。</p> <p>方法： 修道院にて生活する 29 人の修道女 (58-73 歳) を対象にした。これらの対象者は規律を遵守し規則正しく均一な生活を行っている集団である。対象者には通常のしきたりと食事習慣を維持してもらいながら、アルコールを含有しないビール (アルコール分 0.0%) 250mL を一日 2 回、45 日間にわたって食事の際に摂取してもらった。上記介入の前後で、脂質、C 反応性蛋白、インターロイキン-1、-6、tumor necrosis factor-α といった炎症マーカーおよび酸化ストレス・マーカーを計測した。</p> <p>結果： 介入の前後で C 反応性蛋白、早期炎症関連サイトカインに差は認められなかった。介入前に比べると、酸化型低比重リポ蛋白に対する抗体価が有意に低下し ($p < 0.05$)、チオバルビツル酸反応性物質 (-18%、$p < 0.001$) と血漿 carbonyl group content (-21%、$p < 0.001$) は有意に減少していた。一方、α-トコフェロール (+9%、$p < 0.05$) および赤血球グルタチオン値 (+29%、$p < 0.001$) は上昇していた。脂質に関しては、はじめのコレステロール値が 240mg/dL を超えるものにおいてのみ介入後に低下が見られた。</p> <p>結論： アルコールを含有しないビールの摂取は酸化ストレスの低下を招いた。このことは心血管病リスクの低減上、有益である可能性がある。しかしながら心血管病の病態生理学に関与する炎症マーカーは介入の前後で不変であった。</p>	